

昭和初期のレトロな雰囲気が漂う講堂内は最大130人収容
音響に定評があり演奏会などでの活用が期待されます



旧制木造中学校講堂 生涯学習、地域振興の拠点に

移築・復元工事が完了

平成30年11月から移築復元工事が進められてきた市の指定文化財「旧制木造中学校講堂」の完成記念式典が4月5日、移築場所である松の館となりで行われました。

式典では、福島市長が「郷土の歴史を物語る貴重な文化財。今後も市民の生涯学習や地域振興の拠点として利用されることを期待します」と式辞を述べ、関係者のテープカットで完成を祝いました。

また、特別内覧会が4月12日まで開かれ、市民ら約200人が来館。旧制木造中学校の卒業生も訪れ、学生時代の思い出を回想している様子でした。

講堂はホールとして貸し出しをしています。詳しくは、社会教育文化課（☎49-1194）までお問い合わせください。



特別内覧会では講堂の歴史や建築様式の特徴などをパネル展示



夜は市役所側の壁面をライトアップ



当時の洋風建築で流行した工法を用いた外観

講堂の特徴 を解説します



- ① 漆喰仕上げの天井には、2カ所にシャンデリアをつるすメダイオン（円形装飾）が施されており、当時の技術の高さが伺えます。
- ② 屋根は半切妻屋根、鉄板葺きで、緑色に塗装。2つの棟飾りは角錐の上に球体を乗せたトロフィー状の形で、屋根と同様に木芯の上にトタンを巻き付けて作られています。
- ③ ステージ奥には、式典の際に御真影や教育勅語を安置した奉安所を設置。その上の金色に塗られたパルメット（植物モチーフの古代装飾文様）が装飾性を高めています。
- ④ 柱やステージの床板など材木の大部分は解体保存していたものが再利用され、当時を偲ばせています。

※2枚のモノクロ写真は「銀杏ヶ丘の歩み」より引用



全校集会の風景。壇上で訓話するのは、小野寺重吉初代校長と思われる。建設当初、ステージの上には校章が取り付けられていたことがわかる



生徒たちが校庭整地作業を行っている。右奥には講堂が見える（昭和4年の講堂完成間もない頃に撮影したと思われる）

講堂の歴史

昭和4年（1929年）、県立木造中学校の講堂として建設されました。

終戦後の学制改革に伴い、昭和23年（1948年）4月、木造中学校は木造高等学校へと改称されましたが、講堂と校舎は引き続き使用されます。

昭和47年、新校舎移転に伴い、講堂は旧木造町へ譲渡。その後は木造中央公民館の講堂へ転用され、地域の交流の場として親しまれました。

平成に入るとその歴史的価値も認められるようになり、平成4年に木造町の文化財に指定。合併後は市の指定文化財として引き継がれます。

近年、老朽化が進行していましたが、長く保存活用を図るため、平成29年に解体調査を実施。翌年から移築復元に着手し、令和2年3月に工事完了となりました。

